

# ジャグパル

JugPal

2002年9月6日 第17号



## インタビュー

【マサヒロ水野さん】

私が水野さんのパフォーマンスを初めて拝見したのは、忘れも  
しません1992年の都内で開催されたとあるマジックコンベンション  
でのことでした。  
マジックの合間に披露されたジャグリングは、私を含め観客に強  
烈な印象を残しました。

振り返ってみると、あの頃から水野さんの演技は、肩から力(ち  
から)が抜けリラックスして本当に楽しそうでした。  
これなら"オレ"にも出来るかもしれないと、大きな勘違いしたのが  
私のジャグリングを始めるきっかけですが、観ると演(や)るとでは  
大違い。でもそのギャップの面白さに引きずられて今日まで来ま  
した。



従って私にとって「ジャグリング」と「マサヒロ水野」とは、切っても切り離せない関係なのです。

数年前からは江戸祭囃子を教えて頂いたのをきっかけに、個人的におつき合いをさせていただくようになりました  
が、水野さんの一途なまでの芸に懸ける情熱は衰えることを知らず、芸人としての一挙一動にはいつも注  
目しています。

水野さんはご存じの通り日本ジャグリング界の草分け的存在ですが、現在は一見ジャグリングとは無関係にも  
思える様々な芸能活動を展開されています。

そういった活動は水野さんにとってはジャグリングとどういった関係にあるのでしょうか、どういった位置づけな  
のでしょうか、そういったことを含めて今回はたっぷりとお話をお伺いすることができました。

水野さんは名古屋におられた時にプロマジシャン・パピヨン大西さんからマジックを5年間ほど学び、その後横  
浜に来られ1988年には会社を辞め欧州の幾つかのマジックコンベンションを観て回った時に、マジックの合間  
に披露されるジャグリングの面白さに気づき、次第にジャグリングに傾倒していきました。

もともと少年の頃はけん玉に夢中だったし、マジックでもスライハンド系マジックやマニピレーション等、つまり  
手先で小物を操るような曲芸的なことが好きなことから分かるように、なるべくしてジャグラーになったという印  
象を受けます。

当時国内では未開拓分野のジャグリングに興味を持ち、IJAフェスティバルに行くための資金稼ぎを目的に、  
1990年から道に立つようになりました。

1990年のIJAフェスティバルで外国のジャグラーに「日本人なのに何故日本のジャグリングを演らないのか」と  
聞かれ、目から鱗が落ちる思いがし、持ち前の即決即断の性格から、帰国後すぐに、曲独楽の門下、しばらく  
して江戸太神楽の社中に入り、日本古来の曲芸を含む芸能を学び始めました。

曲独楽に関しては、昨年「三増左紋」を襲名し、古来のスタイルと共に、新しいスタイルの曲独楽を演じておられます。

太神楽は民俗芸能の集大成とも言える総合芸術であり、その中でも曲芸はもちろんのこと、お囃子に惚れ込み、現在はご自身の独演会などで笛を披露したり祭囃子の講習会を開いたりしています。

Q: いろいろな活動をされていますが、それらはどう繋がっているのでしょうか。

水野さんの芸能活動の芯(柱)は何でしょう。

A: 子供が練習して何かが出来るようになって、お母さんに「見て見て、凄いでしょ!」と見せるように、僕が面白いと思ったことはきっとお客さんにも喜んでもらえると思う気持ち…、そういったことかなあ。もちろん曲芸的なことは好きですが、そういった驚きや面白さが根幹にあるのだと思います。やっていることがジャグラーの範囲を超えているように他の人の目には見えるかもしれないけれど、自分自身の中では繋がっていることなんです。

水野さんは以前お会いした時には、「遊びを極めれば芸になる」と仰っていましたが、とある芸人さんから「その芸を極めれば遊びに戻るんだよねえ」、と返されたそうです。

最近はその言葉を実感させられる場面に出会う機会が多く、そういった超一流の芸人たちの遊び心に接すること自体が水野さんの肥やしになっているのだと察します。

プロとしての演じる楽しさと苦しさを知り尽くしている水野さんですが、水野さんには「楽しさ」だけではなく「美意識」というものがご自身の中に確実に存在しています。

私も楽器の中で笛が一番好きで、竹筒に穴が空いているだけのシンプルな楽器に魅力があることはお互い確認し合えたのですが、水野さんは付け加えて演奏の際の運指の美しさもあげられ、私にとっては新鮮な驚きでした。そんなところまで見ているんだと。

また太鼓奏者が繰り出すバチの動き、奏者の腕の動き、そして照明に映し出されるそういった動きの残像の美しさを指摘するなど、きっとこの人は芸事における人間の動きの美しさに惚れているのではないのかと思った次第です。

日舞を習っているのもステージ上の立ち振る舞いの重要さを認識しているからこそであり、また道具一つ一つに対する扱い方も丁寧と言うより愛情すら感じさせます。

動きと言えば、多少話はずれますが、最近ジャグラーの中でアクセントづけでしょうか、マジックをされる方がいらっしやいます。が、どうにもぞんざいな演技が多いようです。

水野さんも私もマジックが大好きで、必ずと言っていいほどマジックとジャグリングの関係について話が飛びます。

「マジックから入った人は例外なくジャグリングが大好きだが、ジャグリングから入った人は必ずしもマジックが好きではない。」という事がお互いの共通認識なのですが、水野さんは「ある意味、マジックは見せないジャグリング」と言います。

スライハンド系のマジックをしている人にとっては頷ける言葉かもしれません。特にコインマジックにはジャグラーも興味をそそられるような曲芸的なテクニックが揃っています。

が、もちろんそのテクニックは見せる訳もなく、また当然ですが、テクニックだけではマジックは成り立ちません。

そしてマジシャンは一つのテクニックを習得する難しさと、それには根気が必要なことをジャグラーと等しく理解しているからこそマジックショーの中でジャグラーが出てきた時には、マジックファンであっても観客は惜しめない拍手で称えるのです。

ただしマジシャンは「魔法使いを演じる役者」と言われるようにテクニックを見せるのではなく演技を見せるわけで、やもするとテクニック重視になりがちなジャグリングとは一線を画するところがあるのかもしれません。

加えて個人的に思うことは、やはりマジックをやるのであれば「魔法使い」として演じて欲しい、つまり芸能として扱ってタネ明かしなんかで客受けを狙わないで欲しいし、道具の扱いに関してはもっと細やかな注意を払って欲しい、そんな思いがします。

Q:水野さんは現在、芸域(フィールド)を広げているのでしょうか、それともある夢に向かってステップを一つ一つ上っている状態なのでしょうか。

A:何も分らないです。今は一番自分で自分が分らない時期なのでしょう。  
以前はジャグリングという明確な目標があり、がむしゃらに向かっていたけれど、今のところは確かに曲芸的なものが柱となっているけれど、面白いと感じた芸には枠にとらわれずに挑戦していて、正直言って将来は分らないのです。  
何を表現し、どうやって表現していくのか、今はもがいて模索しています。

水野さんの現在の課題として、「ジャグラーという肩書きをいかにして外すか」というのがあります。  
以前、故早野凡平さんが肩書きのない芸人を目指していると、本に書かれてあるのを読み、肩書き(例えばマジシャン、漫才師など)のない芸人などありえないと思っていたそうですが、確かに現在の活動からはジャグラーという枠組みはあわないようです。  
肩書きで呼ばれない、肩書きで判断されない、「マサヒロ水野」という肩書きの必要のない芸人の誕生を待っています。

惚れ込んだ芸能にはとことん真正面から取り組み、芸域を広げニーズに応じて様々な芸人に変身できる水野さんは日本の曲独楽を愛しています。  
特に独楽の美しさと同じ希なる洗練された曲の世界を語るときは本当に熱いです。

芸の型としては極められある意味完成されたであろう曲独楽の美しさは、世界中の万人に受け入れられるでしょうが、海外では言葉の問題とかがあるので新しい見せ方(工夫)が必要だと言います。  
和物の芸を切り口に異文化を持つ海外の人はもとより、日本人自身が観ても違和感なく日本の美を堪能できる芸の創造を目指し、今はその可能性が見えてきたそうです。

水野さんと話していてよく出てくる言葉があります。

- 「魂」 -

それは芸にとことん惚れ込んで全身全霊で取り組んでいるからこそ出てくる言葉。

昔ストリートをやっていた頃のポリシーを語ってくれました。  
それはお金を集めるために、例えば帽子などを持って自ら観衆のところへ回ることはしないこと。  
つまり、皆さん(お客さん)の好意は皆さん(お客さん)の手で入れてください。  
お金は欲しいけれども、それ自体が目的ではなく、「魂」のこもった芸を見てもらいたい、だからそのために私はここにいるんだと言う気概。  
そういった「魂」のある芸を探求しているかのようです。

「お久しぶり」と握手を交わして、「じゃあ、また」と手を振って別れるまで、6時間余りタプタプと熱く語ってもらいましたが、その熱さの幾分かでも伝われば幸いです。  
今後の「マサヒロ水野」の活躍に注目していきましょう。

[安部保範 <abesan@dream.com>]



## パフォーマンスをさらに良くする12のポイント

[パフォーマンスをさらに良くする12のポイント]

良いジャグリング・パフォーマンスに必要なものは何でしょう？

もちろん、観客が安心して見ていただけるだけの安定したジャグリング技術と、それを効果的に見せる、よく練られたルーチンは必須でしょう。演技のスタイルによっては、観客を引きつける話術や笑いのとれるジョークも必要ですね。

その上で、もう少し気を付ければパフォーマンスをもう少しだけ良く見せられる、そんなポイントがいくつもあります。

1つ1つは小さなことでも、気にするかしらないかで結果や上達に大きな違いが出ることでしょ。

どれもすぐに直すのは難しいことばかりですが、日常生活や普段の練習で気を付けていけば徐々に改善できるはず。まず、問題点を理解し、直すように意識することから始めましょう。

### (1) 手をパタパタ動かさない。

舞台上で話しているとき、手が無意味に動いていませんか？

落ち着かないとき、何か都合の悪いことがあるとき、手は勝手に動きます。

見る人に不安を与えるし、格好悪いので是非やめましょう。

### (2) 姿勢をよくする。

猫背で下を向いていたり、首だけ前へ突き出していたりしませんか？

逆にそっくり返って腹が出ていたり、力が入りすぎて肩が上がっていませんか？

体全体がフラフラと無意味に揺れていませんか？

力みのない中立な姿勢で、きれいにスッと静止して立ってられるように普段の生活から心がけましょう。

### (3) 歩き方をきれいにする。

舞台の出入り、その他での歩き方も大事です。モデルの歩き方でも何でも、よいものはどんどん研究して真似しましょう。

### (4) フリーハンドの処理をする。

ジャグリングの場合、両手がふさがっていることの方が多いたりますが、2-in-1handなどで片方の手が空いたときは放ったらかしにははいけません。

腰に手をやる、水平や斜め下にまっすぐ伸ばすなど、きちんと始末しましょう。

### (5) 下半身も積極的に使う。

ジャグリングは手や腕しか使わないと思いませんか？

人間の身体のうち、約半分は足です。

ルーチンの振り付けを考えるなら、足の振り付けも考えましょう。

立っているときの足の置き方、歩くときの足の運び方で身体全体の表情が変わります。

バレエの基本は足のポジションですし、武道でも極意は運足(あしはこび)にありと言うではありませんか。

### (6) つま先を伸ばす。

アンダー・ザ・レッグ(足の下)をするために足を上げるときや、足を前や横に伸ばすときは、足の甲やくるぶしを曲げず、つま先を伸ばしましょう。

足が2割増しで長くきれいに見えます。

私も Kit Summers 氏から習ったときは「なんて細かいこと...」と思いましたが、とあるバントトワリングの本には、3ページに一度ぐらいの割で「つま先を伸ばせ、笑顔を見せる、手を腰に当てる」と書いてあります。

それだけ大事なのですね。

### (7) 客の顔を見る。

舞台の上から観客の顔を見て、可能なら視線を合わせることはとても大切です。

まず、アイコンタクトをすることにより観客との間に親近感を作り出し、感情や意図を伝え、より興味を持って演技を見てもらうことができます。

次に演者の方も、観客の反応をよく観察することができます。

また観客に顔を向けることによって声が直接伝わり、遠くまで声が通ります。

下を向いたままではどんな演技も他人事に見えてしまうし、声も床や壁に吸収されて観客の耳に届きません。

観客の中に髭を生やした人や子供が何人いるか数えるぐらいのつもりで、遠くの客席までまんべんなく見渡しましょう。

#### (8) 活舌(かつぜつ)をよくする。

発音に不明瞭なところはありませんか？  
一音、一音をはっきり区切って発音できますか？

人によって不得意な発音や癖があり、私は「い」段の音が続く「キリキリ」「チキチキ」などが苦手です。

アナウンサー志望者向けの本を参考に早口言葉などを練習するのもよいですし、子供がいれば絵本を朗読してやるだけでも効果はあると思います。

唇や舌が作る形を一音ずつしっかり意識してしゃべるのが要点です。

#### (9) 音量を増す。

マイクに頼らずともよく通る声は強力な武器になります。

かといって闇雲に大きな声を出したのでは、聞きづらく見苦しくなりますし、のどを痛めます。

演劇などで声を使う人に習うなり、ボイストレーニングの本を読むなりして、正しい方法で少しずつ練習するとよいでしょう。

腹式呼吸ができていない人は、呼吸の方法から変える必要があります。

#### (10) 失敗に嫌な顔をしない。

普段の練習で失敗したとき、舌打ちをしたり、しかめっ面をしたりする癖が付いていませんか？  
そのような癖を観客に見られると、失敗の悪い面が目立つばかりか、好感度が下がります。  
身についた癖は舞台でも出ますから、普段の練習から癖をつけないことが大事です。

あるプロジャグラーは「ドロップしたときに嫌な顔をしたら、コーチにワインをおごる」という約束をしたばかりに、癖が抜けるまでの数ヶ月、ワインをおごり続ける羽目になったそうです。

#### (11) 笑顔を作る。

笑うだけなら誰でもできると思いがちですが、見る人に好感をいだかせる魅力的な笑顔を作るには訓練が必要でしょう。

具体的な方法は私にもよく分かりませんが、笑うための顔面筋肉を鍛え、神経を行き渡らせる反復訓練が大事なのだと思います。

#### (12) 道具を取りやすく。

別の道具に持ち替えたり道具の数を増やしたりするとき、道具の取り出しに時間がかかると、間延びして、観客のテンションが下がります。

ましてや、地面に置いたかばんの横にしゃがみこみ、観客に尻を向けてゴソゴソやるのは最低です。

道具をすぐ取れるように工夫して置くのはもちろん、道具立て(プロップスタンド)を作って使うのもよい方法です。

さてさて、こんなにずらずらと偉そうなことを書いている私のパフォーマンスは、完全無欠で素晴らしいのでしょうか？

ま・さ・か！

正直に言えば、ここに書いたのは全部、自分のパフォーマンスをビデオに撮って見るたびに「あー、ここが良くなればなあ」「うわ、まだだめだなあ」と思っている点なのです。

千里の道も一歩から。ビデオや他の人からのダメ出しを活用して、少しずつ直していきましょう。

[西川正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



## 東洋医学から見るジャグリングのすすめ 【第八回】

〔東洋医学から見るジャグリングのすすめ(第8回)〕

さて今回は、第6回・第7回から説明している肩関節のまとめです。

『肩関節をスムーズに動かすためには胸骨や肩甲骨の動きが必要だ』という事はお分かり頂けたでしょうか？

ジャグリングに限らず、ダンスや舞踊・スポーツや武道まで、鎖骨や肩甲骨の可動を広げる事が出来れば、故障を少なくし、伸びのある大きな動作が出来るようになります。

しかし、図を見ても分かる通り、肩甲骨の周りは多くの筋肉で覆われており、全てを狙ってほぐすのは大変な作業ですし、ここではストレッチの仕方を細かく書く余裕がありませんから、ちょっとしたコツで効果が出る方法を考えていきましょう。

まず、両手をバンザイしてみましょう。

真上にまっすぐ伸ばせば、ある程度肩関節は伸びたように感じられますが、これではまだ不十分です。そこからさらに脇の下を伸ばし、胴体を伸ばし、思い切り空に指を突き刺す感じで伸ばしてみましょう。どうでしょうか？さっきより3cm位さらに上へ伸びましたよね。

次に、『前へ習え』の姿勢で腕を前方に伸ばします。この時も背骨の位置はキープしつつ、肩甲骨を腕と一緒に前方へ思い切り伸ばします。やはり、先ほどより3～5cm位は余計に手が伸びたと思います。

最後に、後ろへ『前へ習え』をするような感じで(手を後ろで組むとやりやすい)、後方に腕を伸ばしてみましょう。もちろんこの時も、思い切り胴体ごと伸ばします。この場合は、胸骨や鎖骨を意識して、胸を張る感じで伸ばします。

### ジャグルポイント

どうですか？いつもと違う所がつかったり、固まっているのを感じましたよね。胸や肩というよりも、脇や背中・胸といった、胴体が伸びる感じが出れば正解です。

特に広背筋(図中の矢印)は腕から肩甲骨、そして腰までつないでいますから、一緒にほぐすような意識を持たなければ、3つの肩関節は真の可動を発揮することは出来ません。

意外にも、腕や肩甲骨の動きに追っていくと、腰までたどり着きましたね。

東洋医学と深い関係を持つ太極拳やヨガなども、各関節の可動が最大限に発揮できるように腰の柔軟性を高める練習は基礎となっています。

ところがプロの方は別としてアマチュアジャグリングサークルでは腰や下半身の柔軟体操をされている方をほとんど見かけません。

そのため、技のレパートリーを増やすことに集中しすぎてしまい関節の可動を余り使わない、ちまちましたジャグリングになってしまいがちです。

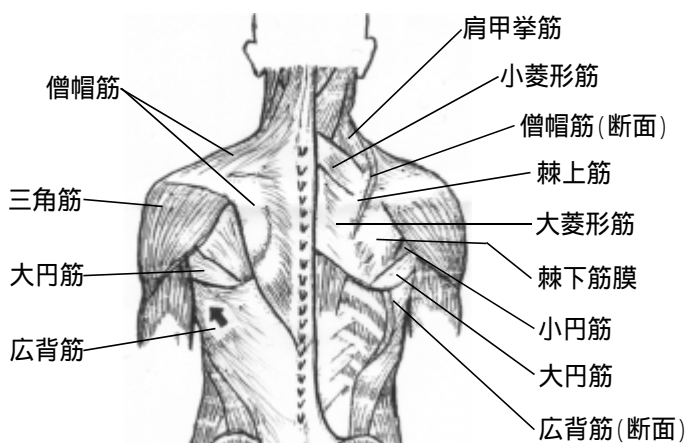
皆さんもジャグリングの練習前に柔軟体操をされたり、既に来る技を大きく伸びのある全身を使った美しく見える動きに磨き直してみてもいいのではないでしょうか。

将来的にも五十肩や腰痛等、柔軟な体を維持しておけば未然に防げる病気はたくさんありますよ。

### § 次回予告 §

少し解剖学的な内容はお休みして、しばらく東洋医学的な内容に戻ります。ツボや経絡(けいらく)などの話もしてみたいと思います。

[MOMONTA]





## DVD紹介

【クラブスウィングングノススメ（補遺）】

第11号の「クラブスウィングングノススメ」において、「よい教材が廃版になってしまっている」と書きましたが、待望の映像教材がDVDで発売されました。

タイトル: The Art of Club Swinging  
出演: Kati Yla:-Hokkala, Sharon Haddock (a: は a ウムラウト)  
発行元: MediaCircus (<http://www.mediacircus.biz/>)  
価格: \$29.99  
時間: 1時間50分

講師はイギリス Gandini Juggling Project の女性パフォーマー2人です。

クラブスウィングングのお手本としてはとても美しく、その動きの正確さとぶれのなさは、まるで機械時計の歯車を見ているようです。画質も良く、クラブの軌跡が見えやすいように背景、衣装や照明にも気が配られており、十分に満足できます。

編集も次のようにいろいろ分かりやすく工夫されています。

- \* 講師2人で、体の正面の動きと背中側の動きを同時に見せる。
- \* 実演の映像に文字、数字や線を書き加えて説明を補う。
- \* スローモーションを必要ところで効果的かつ適度に使う。

技の説明は英語ですが、かなり聞き取りやすいと思います。また、英語が分からなくても、ほとんどの部分は実演を見れば理解できるでしょう。

内容について言えば、「初心者から上級者まで」という謳い文句に偽りはなく、クラブの握り方から始めて、基本技、中級技、Full Fountain, Snake などの上級技、さらには一番ややこしくて難しい Waist Wrap まで段階を追って教えていきます。

個別の技だけでなく、それらのコンビネーションの紹介や、体の方向転換とスウィングングの組み合わせまで教えており、「技はできるようになったけど、どうつなげればいいのか？」というありがちな疑問にもきちんと答えているのがとてもよいと思います。

さらにクラブスウィングングの粋からはみ出して、クラブジャugglingのMike's Mess やいろいろな小技も紹介し、最後には Kati と Sharon による実際のパフォーマンスの映像を収録しています。

2人のパフォーマンスはやはり GJP らしさが色濃く出た複雑なルーチンで、本編で習った内容にさらにひねりと創意工夫が加わったものです。

総合的な評価として、大変よく考えて、とても丁寧に作られた良心的な映像学習教材だと思います。クラブスウィングングをやっている人、やろうと思う人は、ぜひ買うべきだと強くお勧めします。損はさせません。

現在発売しているのは DVD 版のみです。VHS ビデオテープ版も近日発売とのことですが、できれば DVD 版をお勧めします。

やはり、メニューを開いて見たいところへ一発で飛べたり、繰り返し見てもテープが擦り切れたりワカメになったりする心配がない、しまい場所をとらない、というのは魅力です。

地域コードは設定されていないので、日本の DVD プレーヤーやパソコンで見られます。注文の際は、ビデオ信号形式 NTSC を指定してください。

[西川正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



# アート見物記

先号のジャグパル発刊後の6月から8月にかけて私が観たアートの見物記です。

## シルクバロック in 横濱

(6月1日/横浜文化体育館にて)

2002 FIFA ワールドカップ開催記念のイベントで、無料ということもあってか、本当に沢山の親子連れで賑わっていました。

オープニングは、足長のクラウンが観客席から登場したり、ステージ上でシャンソンが披露されるなど盛り上がる雰囲気の中、フランスの「シルク・バロック」を中心に、野毛大道芸でお馴染みの面々も登場し、数々のパフォーマンスがステージ上で繰り広げられました。

## くるくるシルク Vol.3

(6月21日/スタジオPACにて)

くるくるシルク(立川真也さん、藤居克文さん、高橋徹さん)は、サーカス芸やダンスを取り入れたヌーヴォーシルクのような新しい肉体表現を志しているユニットで、今回は檀上花子さんが参加されていました。

帰国された金井圭介さんはまたユニットに参加されるのでしょうか。

まだまだプログラムとしては未完で、模索中というか発展途上の感を受けましたが、今後の展開が楽しみです。

気になったこととしては、例えば3人が同じ演目(ジャグリングや綱渡り)を時としてシンクロして披露するのですが、各人の得手不得手からくる技量のバラツキが目立ちました。

## ダメじゃん小出ソロライブ Vol.3

(6月27日/PlanBにて)

2ヶ月に一回のペースでライブをこなしていますが、ここではジャグリングは一切披露されません。披露されるのは時事ネタを中心にしたシニカルな一人コント。

新聞を読んでいない人にはついていけませんよ。

## カバレット チッタ (Kabarett CITTA')

(7月10日/川崎CLUB CITTA'にて)

豪華な演奏陣と、これまた豪華なパフォーマーたちによって繰り広げられたキャバレーショー。楽しみました。感想は以下のサイトで。

<http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/report/report2002.html#020710>

または大島さんの以下のサイトで。

<http://homepage2.nifty.com/deracine/>

## ポリショイサーカス

(7月26日/有明コロシアムにて)

サーカスを観たい観たいと思っていたので、欲求している身体にしみ込んでくるようで存分に楽しみました。

サーカスで観るジャグリングは、動きも激しくアクロバティックで、リングの広さと高さを存分に使い切るので観ていて気持ちが良いです。

今回は3人組でしたが、これまた完璧・ノーマスで感動した！

## シルク・ドゥ・フランス

(8月11日/横浜MM2 1クイーンズサークル)

ショッピングモールの吹き抜けのオープンスペースでの空中アクショショー。

高さ10mでのブランコや、布やロープを垂れ下げてアーティストがそれらに絡むなど、バリエーションに変化を持たせ、合間に地上でジャグリングを取り入れるなどの工夫で、わずか3人というアーティスト(仏)でしたが全く飽きることなく時間が過ぎていきました。

## ダメじゃん小出ストリート

(8月11日/横浜MM2 1)

久しぶりに小出さんのストリートパフォーマンスを拝見。

ジャグリングの技のキレの良さは相変わらずですが、演じている時間が短くなったような気がするのは私だけ？

ジャグリングから距離を置き始めたのかなあ。

## ククラチョフの世界でたったひとつの猫劇場

(8月16日/ル テアトル銀座にて)

毎年たくさんの猫を連れていつも違ったプログラムで我々を楽しませてくれます。

年々ご子息のクラウン芸のスキルが向上していくのが分かり、その反面父親ククラチョフさんの見せ場が減っていくのが残念です。

オフィシャルサイト:

<http://www.webforest.net/cat/>

## ダメじゃん小出ソロライブ Vol.4

(8月28日/PlanBにて)

小出さんのことが8月26日の毎日新聞(以下サイト参照)にデカデカと載ったせいもあり、超満員。

<http://www.mainichi.co.jp/entertainments/geinou/0208/26-02.html>

固定ファンも多く、ソロライブはいつも満員状態ですが、ジャグラーでもある小出さんの一面を知らない観客もいるのかもしれないね。

[安部保範 <abesan@dream.com>]





# お知らせ

【Japan Juggling Festival 2002】

夏が終わり季節は秋。イベントが盛んに行われます。皆さん、どこに行きますか。大須町人祭？静岡大道芸ワールドカップ？

その前に開催される、日本ジャグリング協会が主催する日本最大のジャグリングの祭典 JJF2002 (Japan Juggling Festival 2002) は、いかがでしょうか。

JJF2002

日程: 10月5日(土)～6日(日)  
場所: 神奈川県川崎市中原区 とどろきアリーナ (ゲストステージ)

日程: 10月4日(金)  
場所: 東京都世田谷区立 烏山区民会館  
出演者: Dana Tison (デイナ・タイソン)、シリウス

JJFでは以下のようなイベントを予定しています。

## 1. ワークショップ (Workshop)

ジャグリング初心者から、さらに高度な技術を身に付けたい上級者までレベルに応じたジャグリング教室を多数開催する予定です。

トスジャグリングの他に、昨年好評だったダンス・ボイストレーニングや、クラブスイング、ダイスタッキング、パントマイム等、多岐に渡って行われます。

## 2. チャンピオンシップ (Championship)

定められた時間の中行なわれるジャグリングの競技会です。ジャグリング技術の高さ、パフォーマンス性、オリジナル性などの観点から厳正な審査によって順位を決定します。

海外のジャグリングレベルから比べると日本のレベルはまだ、とお思いの方々。一度ご覧ください。日本のレベルもかなりの高さ。IJAやEJCのビデオでは見られないマニアックな技が炸裂します。

## 3. フリーパフォーマンス (FreePerformance)

アツと驚く高度な芸から、思わず笑ってしまうようなばかばかしい一発芸まで、誰でも自由に参加できる時間、内容の制限のないステージです。

ジャグリング以外でも可なので、なんだ～ジャグリングじゃないんだ～、となりそうですが、そこは皆さん、芸達者。歌あり自由落下ありでなんでもあり。昨年は、IJA2000チーム1位のRedefining Gravity (リディファニング・グラビティー)のお二人が来てくれて、フリーでクラブを投げてくれました。

## 4. ジャグリングゲーム (Game)

ジャグリングに関連のあるたくさんのゲーム、競技会を開催します。

コンバット、ナンバーズ、エンデュランスなど上級者が本気になって取り組むものから、初心者でも気軽に楽しめるものまで幅広い演目を用意しています。一昨年のコンバットでは、Sean McKinney (ショーン・マッキニー)氏の実力・負けず嫌い1位が決定しました。

## 5. ジャグリング道具の販売・オークション

会場には特別のブースを設け、ジャグリング道具や書籍、ビデオの販売を行います。また普段使わない道具などを皆が持ち寄って、オークションを開いたりします。

著名なジャグリングショップだけでなく、ドーナツライブのビデオが売られたり、手製のビーンバッグが売られたり、思わぬ掘り出しものがあるかも。JJF2002のTシャツも販売しますので、宜しくお願いします。

## 6. ゲストステージ (GuestStage)

海外で、国内でトッププロとして活躍しているパフォーマーを招待し、ジャグリングのステージショーを開催します。ゲストステージはJJF会場とは別の場所で行われ、参加費とは別料金となります。

日本では、屋内で見る機会が少ないジャグリングですが、ジャグラーがジャグラーのために企画したステージは、他では見られないものとなるでせう。

デイナ・タイソン氏がどのようなステージを見せてくれるのか、シリウスのお二人は舞台栄えるんだろうな等と、今から楽しみです。

JJFも今年で4回目。参加者も年を追う毎に増えております。

今年に関東開催ということで、参加者増を見込み、とどろきアリーナを借りきってしまいました。

勘違いしてる方も多いんですが、サブアリーナじゃなく、メインアリーナですよ。めちゃくちゃ広いです。

これだけ広い会場でジャグれる機会は、滅多にありません。(雨でも大丈夫。)

ジョグリングトラックやコンバットリングを作っても、まだまだスペースがあります。

JJFに参加したことがある方は、これまで以上の規模を体験して下さい。

JJFに参加したことが無い方も、JJF2002のwebの、FAQ(よくある質問)を参考に、是非！！

その他、JJF2002の決定事項は協会のweb(以下URL)などで随時公表します。

<http://www.juggling.jp/jjf/JJF2002/index.html>

[JJF2002実行委員会広報: 広幡章登 <jjf@juggling.jp>]

P.S.

JJFで、個人的に楽しみにしているのがビッグトスアップ。道具を上投げる、という当たり前のことですが、他の人の投げた道具と合わせると、無数の道具が頭上に広がり、想像以上の光景となります。個人やサークル単位では経験できない、想像できるけど、想像を超えた体験をしてみませんか。



## 公演情報

キグレNewサーカス  
8月3日～9月23日  
石川県西部緑地公演北側特設会場  
<http://www.jah.ne.jp/kigure28/>

ウクライナ・サーカス  
9月7日～11月24日  
野外民族博物館リトルワールド  
<http://www.meitetsu.co.jp/little/>

木下サーカス  
9月14日～11月25日  
さいたま新都心けやきひろば南特設会場  
<http://www.kinoshita-circus.co.jp/>

ポップサーカス  
9月14日～10月20日  
神奈川県平塚市東豊田  
<http://www.pop-circus.co.jp/>

ダメじゃん小出うな井ライブ  
9月16日  
神奈川県横浜市野毛町「一千代」  
<http://www.accircus.com>

第2回東京国際フル祭2002  
10月8日～10月14日  
東京都両国シアター (カイ)  
<http://www.accircus.com>  
出演: 山本光洋, 神山一朗, 亀田雪人, 重森一,  
ふくろうじ, 京本千恵美, 水中三姉妹,  
CHICA, Microband, Tamila

ダメじゃん小出ソロライブVol.5  
10月24日  
東京都中野富士見町 PianB  
<http://www.accircus.com>

トリトン・クラウン・ミーティング  
10月23日～10月25日  
クラウニング・ワークショップ  
クラウンショー・レッスン  
10月26日～10月27日  
イベント参加  
東京晴海トリトン  
スタジオエッグス<[info@studioegs.com](mailto:info@studioegs.com)>  
<http://www.triton-shop.com>

中国雑技"GOLDEN LIONS"  
12月14日～1月3日  
東京国際フォーラム

DLJディレクトSFG証券が、いわゆるエンタテイメント・ファイナンスと呼ばれるスキームで公演資金を個人投資家から調達。一口10万円で総額2億円を募集。6～7割販売で利益化。(完売で10～50%の利益)  
<http://www.dljdirect-sfg.co.jp/DLJJapan/topinfo/GoldenLion2002.html>

キダム  
シルク・ドゥ・ソレイユのキダムがいよいよ来年来ます!  
2003年2月7日～5月5日  
原宿・新ビッグトップ  
<http://www.quidam.jp/>  
(一般発売は9月28日10時から)

## 編集後記

東京都の"ヘブンアーティスト"が始まりました。  
この制度は、東京都曰く、『審査により選定したアーティストにライセンスを発行して、公共施設の一部を活動の場として提供することによって、「街のなかにある劇場」として都民が気軽に芸術に親しむことができ、アーティストと観客との交流をとおして芸術文化を育む場としていきます。』というものです。  
オーディションに合格したアーティストとその活動場所は以下のサイトを参照。  
<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/heavenartist/>  
この制度が、他の自治体に、はたまた日本のパフォーマンス界に、どう影響を及ぼしていくのか、今後の成り行きに野次馬の私としては注目しています。  
パフォーマーの立場から、あるいは観客の立場から、何か情報がございましたらお教えください。

ジャグパルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)  
紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。  
WebSite: <<http://homepage1.nifty.com/abesan/>>

編集発行人: 安部保範  
住所: 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)  
E-mail: [abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com)  
WebSite見世物広場: <<http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/>>